

次回の無料法律相談は、九月二〇日(月)午後六時から。予約制です。お申し込みは、地区委員会(二五・四八五四)か長谷田(〇九〇・二九三五・九九六三)まで。生活相談は、随時受け付けています。上記の携帯に気軽にお電話ください。

2010年9月12日 543号
発行責任者 菊池捷輔
発行 日本共産党
はせた公子事務所
伊勢崎市八幡町44番地
電話・ファックス 25-1130
ホームページ
<http://www.jcp-isesaki.net>
Eメール haseda@jcp-isesaki.net
お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。



北・南・殖蓮・茂呂・境地域ニュース

公子のフレッシュ便

伊勢崎・多喜二祭に各地から150人



小説「蟹工船」で知られる共産党員作家小林多喜二の文学と生涯を考える第3回伊勢崎・多喜二祭が五日開催され、各地から一五〇名が参加しました。午前は小林多喜二が講演会の前に立ち寄り検束された、故菊地敏清宅(北千木町)の見学会が行われました。午後はフェリス学院大学の島村輝教授が記念講演をし、故井上ひさし氏の最後の戯曲「組曲虐殺」に描かれた多喜二像を紹介。井上氏の父親も『戦旗』に寄稿していた事実を語り、先人達につながる思いとして「困難な中でも理想と希望を失わない。多くの人達とともに時代が進んでいくことを忘れないで」とよびかけました。

この行事は、一九三一年九月六日文学講演会で伊勢崎を訪れた多喜二らが検挙され、聴衆が警察署を包囲・占拠し、奪還した事件から、七九年目の記念イベントとして行われました(写真は、挨拶する八田利重実行委員長)。

そよ風

お弁当の思い出

昔は学校へ行くときお弁当を持っていました。弁当箱はアルミニウムでできていました。梅干しなどにふれると、アルミが酸で溶けて黒っぽい液が出たり、穴が開いたものです。私のうちでは弁当のおかずによく海苔を使いました。ご飯をつめた後にお醤油をかけ、その上に焼き海苔を載せただけの簡単なものです。

昼になって弁当のフタを取ると、海苔がフタに付いていることがよくありました。そんなときには箸で剥がしてご飯と一緒に食べたものです。ご飯だけを食べるのを「ほぐい」と言いました。東条操の全国方言辞典によれば「副食物なしで飯のみを食べること。群馬県佐波郡」と。

おかずを先に食べてしまえば、否応なしに「ほぐい」しなければなりませんし、それこそ味気ないことになります。ご飯とおかずが丁度一緒に腹中にゴールするような研究をしたものです。油揚げもおかずによく登場しました。両面を火であぶって醤油を付けたものです。卵焼きなどクラスで一人ぐらい。私は食べた覚えがありません。(神)



北島議員の決算総括質疑より 市民は不況にあえぎ、市財政は健全化

緊急雇用本格的には九月から

伊勢崎市では昨年派遣切りなどで大量の失業者が街に溢れました。国の経済対策で臨時的に雇用する緊急雇用対策がとられましたが、当初予算ではわずか五〇人。その間有効求人倍率は、五月に〇・二二。六月が〇・二八という状態が続きました。市が補正予算で、仕事を追加したのが九月になってからです。最終的には二六一人の雇用となりましたが、雇用情勢が一番厳しかった、春先から緊急雇用の人数を増やせば、もっと的確に失業者の救済が進められました。百年に一度という緊急事態の認識が欠けていたのではないのでしょうか。

雇用安定助成金 利用は予算の二八%

伊勢崎市に百人以下の中小企業で労働者の解雇を行わず休業した場合、中小企業雇用安定助成金を支給する制度があります。県内では太田市と伊勢崎市の制度で、全国から問い合わせがある施策でした。国の緊急雇用安定助成金を受けて休業した企業、にその差額を補填するもので、昨年度は三〇五〇万円の予算を組みました。しかし助成額上限を三〇万円とし、二分の一助成から五分の一助成に引き下げた結果、利用は五八社八二六万円に止まりました。百年に一度という厳しい雇用状況の中で、一千万円を超える雇用対策の予算が残りしました。この事業も、財源は国の交付金がすべての事業です。

市民の苦況よそに借金 減らし貯金殖やす市政

このように、緊急対策は国からの交付金でまかなえる事業しか手を付けず、それも余らせるというおざなりの仕事ぶりです。一方で市財政の健全度合いを示す指標は、実質公債費比率が、九・一 八・四へ 将来負担比率が、九四・六 七七・五へと、おおきく健全な方向へ進み、県内旧五市では最も良好な財政の指標です。貯金にあたる財政調整基金も、昨年度十二億円増えて、五二億三〇〇万円となりました。緊急事態に備えて基金を増やしたと言っていますが、昨年の事態を緊急事態といわずどんなときも緊急事態といわないのでしょうか。

